MONO JAPAN

JAPANESE CRAFT & DESIGN

2 - 5 FEBRUARY 2017
in
LLOYD HOTEL & CULTURAL EMBASSY, Amsterdam

アムステルダム発、日本のクラフトやデザインプロダクトに特化した展示・即売会「MONO JAPAN – Japanese Craft & Design」。昨年につづき２度目の開催となる今年も、会場はアムステルダムのカルチャー発信の中心、世界中からクリエイターが集まるロイドホテル。その昔は刑務所としても使用された歴史的建造物を、様々なデザイナーや建築家がユニークにリノベーションしたこのホテル全体が MONO JAPAN の会場です。展示場所は均一に区切られたいわゆる“ブース”ではなく、ホテルの客室。出展者は、客室で思い思いの世界観を作りながら製品を展示します。
ラインナップは、陶磁器、テキスタイル、刃物、和紙、家具、漆器など、日本特有の伝統工芸をベースとしたプロダクトから、お茶に至るまで、バラエティに富んだ魅力的な製品。来場者はホテルを回遊しながら各部屋へ入って行き、それぞれ趣向を凝らし展示されている製品と、そのものづくりのプロセスや歴史を知ることができるという他にはないスタイル。

期間中は、クリエイターや専門家から見た日本の『MONO』の魅力に関するトークイベント、出展者によるワークショップなども開催。また通常の展示会と違い、展示品をその場で購入していただけます。大切なのは、歴史や文化を重んじるヨーロッパで、できるだけ多くの方と「日本の『MONO』づくりのストーリー」を共有できるかということ。
そしてそのための場所が MONO JAPAN です。

世界のデザインシーンを牽引する国、オランダ。文化的な価値を重んじる国民性を持ち、またアムステルダムはインテリアやプロダクトデザインなどが身近でライフスタイルに敏感な場所です。プレス関係者やプロのバイヤー、感度の高いアムステルダムの人々、そしてたまたまロイドホテルに宿泊している世界中からのお客さまに、日本のプロダクトを知って頂き、多くの日本の『MONO』ファンが新たに生まれることを目指しています。

「MONO JAPAN –Japanese Craft & Design」2017 開催概要

会期：2017 年 2 月 2 日（木）- 5 日（日）

3 日（金）11:00 - 20:00 / 4 日（土）11:00 - 20:00 / 5 日（日）11:00 - 18:00

※2 日（木）はプレス＆バイヤーの方のみ。

会場：Lloyd Hotel & Cultural Embassy

Oostelijke Handelskade 34, 1019 BN Amsterdam

http://www.monojapan.nl/

2017 EXHIBITIORS ※アルファベット順

1. 2016/ （食器）／佐賀県西松浦郡有田町
2. 830 デザインラボ （ジュエリー）／東京都大田区
3. Aizu Creative Japan （食器 他）／福島県会津若松市
4. アセミコ （食器）／東京都港区
5. 淡路市商工会 （お香）／兵庫県淡路島市
6. Based on Roots （食器、文具 他）／オランダ・ナイメーヘン
7. シーラカンス食堂 （刃物、播州そろばん 他）／兵庫県小野市
8. i ro se （革製品）／東京都江東区
9. 出雲ノ （食器、和紙製品 他）／島根県松江市
10. 金井工芸 （草木染め製品 他）／鹿児島県大島郡龍郷町
11. 片山文三郎商店 （絞り染め製品 他）／京都府京都市
12. kitta （草木染め製品 他）／沖縄県大宜味村
13. MAKER KAMER （食器、文具 他）／京都府京都市
14. マルヒロ （食器）／長崎県東彼杵郡波佐見町
15. mature ha. （帽子）／兵庫県神戸市
16. 長崎県 （食器）／長崎県長崎市
17. orit. （ハンカチ、スカーフ 他）／兵庫県加東市
18. PULL+PUSH PRODUCTS. （家具、カバン 他）／京都府京都市
19. 佐賀県観光連盟 クラフトツーリズム （食器、和紙製品 他）／佐賀県佐賀市
20. さしものかぐたかはし＋マアル （家具、肌着）／広島県安芸郡熊野町
21. SyuRo （食器、玩具 他）／東京都台東区
22. 宝島染工 （草木染め製品 他）／福岡県三潴郡大木町
23. Takumi Craftworks （食器）／オランダ・ハーグ
24. TIME & STYLE （家具、食器 他）／東京都港区
25. TSUNAGU SONOGI TEA FARMERS （日本茶）／長崎件東彼杵郡東彼杵町
26. うきは市 （食器、網かご 他）／福岡県うきは市

1. 2016/ （食器 ）／佐賀県西松浦郡有田町

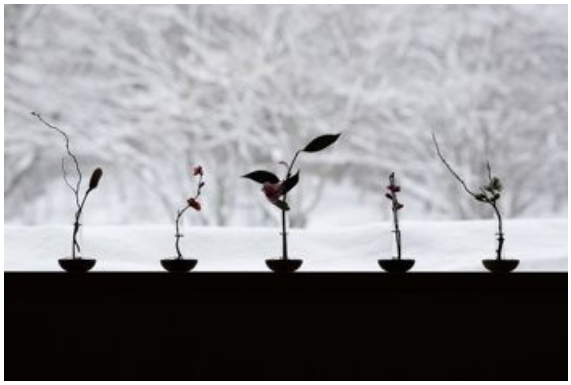
日本の磁器製造が始まった地、有田。創業 400 年を迎えた 2016 年に、3 年の歳月を経て新しく生まれた有田焼ブランド「2016/ 」は、有田の職人の高度な技術と世界的に活躍する 16 組のデザイナーの才能を集結し、世界の人々に向けて現代の有田焼を生みだしました。デザイナーと窯元だけでなく、商社、佐賀県や歴史的にも有田と関係の深いオランダなども参加し、商品開発だけにとどまらないプロセスを経て生まれました。柳原照弘とショルテン＆バーイングスがクリエイティブ・ディレクターをつとめています。www.2016arita.jp/

展示作品：2016/ ブランドよりスタンダードシリーズを展示。参加する 16 組のうち、15 組のデザイナーと有田の窯元が協働し完成した、国や食文化を越えて、人々の日々の暮らしの中で使用するのにふさわしい機能的な磁器。

2. 830 デザインラボ （ジュエリー）／東京都大田区

「町工場リング（Small Factory Ring）」は、現代美術作家の田添かおりがデザインし、金属など精密加工を行う町工場が多数ある東京都大田区の矢澤製作所が製作するアートジュエリー。産業向けに生産される小さなパーツをヒントに、同じく小さく、しかし普段工場で生産されることはほとんどない、工業品とは対局的なジュエリーに注目。知られざる精密で高度な技術を、より肌で身近に感じられるデザイン。830designlab.tokyo

展示作品：工業品をイメージしたシンプルでシャープなデザイン。また、リング部分と装飾のポイントとなるヘッド部分の 2 つの部品からなり、それらをネジ式に組み立てて完成します。パーツを付け替えることでデザインを変えられ、いろいろな組み合わせを楽しめます。



3. Aizu Creative Japan （食器 他）／福島県会津若松市

Aizu Creative Japan は、日本で固有に発展してきた木と漆の文化にイノベーションを起こす４ブランドの共同チーム。世界中の人々に「消費し尽くす暮らし」の対極にある「漆のある暮らし」を伝えることを役割として、普段使いの道具にこだわり、修理できる環境も整えてきました。ナチュラルでオーセンティック、イノベーティヴでカジュアルな漆の道具たちを日々の暮らしに。www.raku-zen.net、bitowa-from-aizu.jp、nodate.jp

展示作品：職人の技と障がい者の視点を取り入れたデザイン漆器「RAKUZEN」。ガラス、磁器など異素材コラボレーションを多様に展開する「BITOWA」。屋外でもカジュアルに漆を楽しめるがコンセプトの「NODATE」。100 年以上続く「すり型轆轤」の量産技術を活かし、極上の口当たりを追求した薄挽きフォルムが特徴の「urushiol」。

4. アセミコ （食器）／東京都港区

デザイナー石黒悠紀とラース・アムホッフが 2015 年にスタート。Asemi Co. は “asemic writing”（文字のように見えるが、国籍や言語にとらわれず見る人読む人がそれぞれに感じて好きなように解釈するアート）にちなんでつけました。バックグラウンドや国籍に捉われることのない製品を作り出すことで、Asemic writing/art の哲学をデザインに乗せ、世界に発信していきたいと考えています。www.asemi.co

展示作品：伝統的な形状をベースにしつつコンテンポラリーな特徴を加えた 2 サイズのカップのデザインを、波佐見焼、備前焼、松代焼、小石川焼の窯元でそれぞれの特徴を活かし製作。窯元ごとに個性的な佇まいですが、カップはサイズや窯元に関わらずスタッキングが可能。

5. 淡路市商工会 （お香）／兵庫県淡路島市

今から約 167 年前の嘉永 3 年（1850 年）に淡路島でお線香が作り始められました。
この歴史と伝統に育まれた淡路島のお線香の品質を守り続けているのが香りのマイスターと呼ばれている「あわじ島の香司（こうし）」たちです。awaji-kohshi.com
※香司＝調香から仕上げまでの香り作りにおける全品質を管理し責任を担う人

展示作品：14 人の香司たちが、淡路島のお線香という品質にこだわりと心意気を持って練り上げた 14 種類の香りの線香。守り続けられた伝統の製法と厳しい品質管理、香司の高いプライドによって生み出された線香。それぞれに優雅な個性を感じる香り。

6. Based on Roots （食器、文具 他）／オランダ・ナイメーヘン

伝統とイノベーションの密接な結びつき。オランダの販売代理店 Based on Roots が扱う商品はすべて、細心の注意を払い丁寧に作られた日本のものばかりです。伝統工芸、技術、職人技、そしてデザイナーによる革新的な解釈。それらが、Based on Roots が扱う現代のライフスタイルにマッチした日本製品のベースにあるコンセプトです。www.basedonroots.nl

展示作品：デザイナー深澤直人と和紙メーカー大直による特殊な紙製品「SIWA｜紙和」。サミラ・ボーンによるビニール製の「サン・カク・マド」及び「フロシキシキ」コレクション。トラフ建築設計事務所がデザインし、かみの工作所が製造する紙製の「空気の器」。デザイナー島村卓美による木製品コレクションなど。

7. シーラカンス食堂 （刃物、播州そろばん 他）／兵庫県小野市

日本の文化を未来に継承することを目標に文化、ものづくり、教育をキーワードに活動しています。国や県、企業から個人までさまざまな立場で、文化やものづくりに問題意識を抱いている方たちとともに活動。それぞれの問題に潜む「矛盾」と「本質」を見つけ出す、独自のデザインロジックで問題を解決していく活動を行っています。www.c-syoku.com

展示作品：刃物、瓦食器、そろばん、日本酒などこれまでシーラカンス食堂が関わってきたさまざまなものづくりと文化を紹介します。期間中、ワークショップも開催します。

8. i ro se （革製品）／東京都江東区

イロセとは、古事記に記されている兄弟という意。「色」という言葉の語源とされる言葉。兄弟2人で立ち上げたブランド i ro se は、家にある不要品で道具を創って遊んでいた幼少時代の遊び心を基本に物作りをしていこうと、大人になった二人が設定した場所。遊び心と発見、自分を知るという意味での独創性をクリエーションの基本におき、頭ではなく実際に手を使って作り上げていくという即興性を大切にしています。irose.jp/

展示作品：メインテーマは、幼少期の遊び。代表的な商品「SEAMLESS」は、おりがみの要素を取り入れ、一枚の革を縫製せずに織り込んで組み立て、見た目はシンプルですが、とても考え抜かれた構造をもつシリーズです。

9. 出雲ノ （食器、和紙製品 他）／島根県松江市

「出雲ノ」は、平成元年、「伝統文化の現代化」をテーマに島根県松江市周辺の手仕事事業者で結成した異業種グループです。日常に自然や文化がたくさん残っている出雲の国で、昔からこの地に伝わるモノづくりの伝統を大切にしつつ、現代にあった商品開発を行っています。izumono.c-syoku.com

展示作品：松江は、全国的にもお茶どころであり、お抹茶文化が今も日常の暮らしに存在します。会場では、茶の湯をテーマに陶器のお椀や漆器の皿、銅彫金の花器を用いたお茶席を演出。お茶菓子やお茶に関係するプロダクトを販売予定。映像を用いた、松江出雲の自然や人々と暮らしをそのまま体験してもらう空間演出を企画しています。

10. 金井工芸 （草木染め製品 他）／鹿児島県大島郡龍郷町

1,300 年以上の歴史がある本場奄美大島紬の泥染めを担う金井工芸では、古来より奄美大島に伝わる伝統技法泥染めをはじめとした天然染色を行い、染めを通じて、豊かな自然と文化、先人の知恵を共有しています。www.kanaikougei.com

展示作品：奄美大島のものづくりにおいて代表的な、大島紬から民具、泥染めコラボレーション商品を展示します。日本の南の島にしかない独特の風合いを感じられるものばかりです。

11. 片山文三郎商店 （絞り染め製品 他）／京都府京都市

千余年の歴史に培われた京鹿の子絞り。「着物」や「手作業の絞り染」などが過去の民族文化として忘れ去られそうになる中で、「絞り屋 片山文三郎商店」にしかできないものとは。
伝統技術を絞り呉服という形で守り続けながら、絞り染めが持つ無限の可能性を現代に伝えるための現代生活に沿う製品を提案しています。bunzaburo.com

展示作品：伝統の絞り染めを用い、ユニークなフォルムと風合いで、どこにもないファッション製品を提案。整然と続く絞りの凹凸の配列。永遠のような繰り返しが生み出す日本的な様式美とユニークで大胆なフォルムの絞り染め製品。「ファッションとアートの融合」、「纏う芸術」＝Wearable Art をテーマに開発をすすめてきた製品。

12. kitta （草木染め製品 他）／沖縄県大宜味村

植物で染めるという行為は、薪の火、色を与えてくれる植物、水、藍を繋ぎ育てる土、風、など自然界のエレメントの中を、布や糸をたずさえて旅すること、とも言えます。染めはじめてから、染め上がるまで、幾度もこの巡りをくりかえし出来上がった布を　断ち、縫いすすみ、一枚の衣になるまでの時の連なりと、その連なりを旅するわたしたちの、日々の喜びが、手に取る方へと届きますように。kitta-sawa.com

展示作品：自然素材の布を植物染料だけで、繋がる色の環のようなグラデーションに染め仕立てた製品。互いに尊重しあい、国籍や人種、世代や住む場所を超えて繋がる私たちのあたらしい民族衣装をイメージしたデザイン。kitta が栽培、製造している琉球藍の映像も上映します。

13. MAKER KAMER （食器、文具 他）／京都府京都市

文化と芸術の中心地として大いに栄えた京都。そこでは今もなお、多様な伝統工芸やモノづくりを愛する企業やメーカーが数多く存在しています。2016 年 9 月、京都の伝統的なプロダクトとオランダ人の創造力が出会う場所、またモノづくりを愛する人々が語らい、学び合い、刺激を与え合う場所として、プロジェクト「MAKER KAMER（作り手の部屋）」は動き始めました。
www.makerkamer.nl

展示作品：アムステルダム・ダム広場の近くにある「MAKER KAMER」のポップアップショップは、デザインラボとして、さまざまなクリエーターとものづくりの交流をはかっています。その交流、コミュニケーションから生まれてきた商品の「今」を展示。商品の販売だけでなく、そのプロセスも含めた展示をします。

14. マルヒロ （食器）／長崎県東彼杵郡波佐見町

HASAMI とは長崎県波佐見町から発信する、波佐見焼のブランド。有田の下請け産地として長らく裏方の存在だった波佐見。製造のプロセスで分業体制をとり量産を得意とする波佐見では、関わる人数の多さから、新商品開発に費用と時間がかかったり、各工程での意思疎通に問題を抱えている反面、各分野の高い技術力と効率的な生産体制を育んできました。HASAMI は分業の垣根をこえ産地としての誇りを胸に、“道具” としての陶磁器を作ります。
www.hasamiyaki.jp

展示作品：「BLOCKMUG」は、大人の色合いながらも、子どもの TOY ブロックのように組み合わせて楽しめます。手に馴染むように設計されたハンドル、スタッキングでき、丈夫なデザイン。

15. mature ha. （帽子）／兵庫県神戸市

mature ha.（マチュアーハ）は、帽子をあたりまえにかぶる生活を知ってほしい、楽しんでほしいという想いから生まれたブランドです。神戸を拠点に、かぶり心地や素材感にこだわった、日常を少し豊かにする「新しい帽子」を提案しています。mature-hat.com

展示作品：無駄な装飾を省いたシンプルなデザインは自由度が高く、形を変えたり、複数のかぶり方ができるのも特徴。中でも代表作の『BOXED HAT』は柔らかな素材感を生かし、シワを軽くのばすようにかぶる驚きと、収納・持ち運びという機能性を追求した新しいコンセプトの帽子です。

16. 長崎県 （食器）／長崎県長崎市

自然豊かな九州北西部「肥前（現在の長崎県、佐賀県）」で誕生、全国へ流通し我が国の暮らしに磁器を浸透させ、海外からも賞賛された磁器。その技術を受け継ぎ今も特色ある焼物が生まれる「肥前」は、歴史と伝統が培った技と美、景観を五感で感じられる磁器のふるさとです。hizen400.jp、mikawachi-utsuwa.net、hasamiyaki.com、hasami-porcelain.com、kohsyo.co.jp

展示作品：有田で始まった磁器生産技術が、三川内や波佐見、伊万里、嬉野へ独自の文脈で発展し、個性際立つ焼物へ。白磁をベースに繊細な彫刻で仕上げた透かし彫りや、卵の殻のように光にかざすと透けて見えるほど薄い卵殻手が特徴の「三川内焼」。巨大な登り窯により大量生産に成功し、高価であった磁器を庶民の器へと変貌させて「波佐見焼」など。

17. orit. （ハンカチ、スカーフ 他）／兵庫県加東市

200 年の伝統を誇る「播州織」産地、兵庫県西脇市を中心に北播磨地方で始まった和製服飾雑貨ブランド。「播州織」は、糸を先に染めて織る「先染め」が特徴で、色のついた糸を緻密に配置し、さまざまな模様を織で表現します。woven in japan と記載しているのは、日本で企画し織っていることへの誇り。orit. は、古い道具も培われた技術も、新しい機械や素材も、日本の様式や海外の文化も全て大切にします。クローゼットの中身をより輝かせる、＋１のファッションアイテム作りを目指しています。www.orit.jp

展示作品：旧式の「力織機」を使用し、通常の何倍もの手間と時間をかけて、糸本来の膨らみや柔らかさを活かすことで風合いや肌触りにこだわったモノづくり。力織機特有の生地端のミミを活かすことで縫製をなくし、ゴロツキのない優しい巻き心地を実現しています。

18. PULL+PUSH PRODUCTS. （家具、カバン 他）／京都府京都市

クラフトデザイナー佐藤延弘と小松左苗によるモノ作りブランド。京都を拠点に、商品のデザインから製作、梱包発送まで一貫して行う。コンセプトは「素材」と「ストーリー」。使うときの楽しさや時間とともに伝わってくる魅力、触れたときのモノの感覚を大切にしたアイテムを発表しています。当たり前のものを少し斜めの角度からみることを意識し、ヒトの手だからこそできる繊細で作り手の温度が伝わる作品をつくり続けています。www.pull-push.com

展示作品：製品のひとつひとつをデザイナー自身の手仕事により製作。建物の床や壁として使われている素材や、日用品として日々消費され続けるゴミ袋の素材など、身近にあって当たり前のように使われる素材に目を向けたコレクションを展開します。

19. 佐賀県観光連盟 クラフトツーリズム （食器、和紙製品 他）／佐賀県佐賀市

日本の南西部、九州の北部に位置する佐賀県は、美しい海岸線を楽しむことができる玄海と、６mの干満差がある有明海という２つの海に接し、豊かな自然に育まれた農産物、海産物、温泉、酒、歴史のある祭りや建築物など、さまざまな魅力があります。佐賀県で生まれた工芸品の一部と合わせて、それらのモノを育んだ佐賀の魅力についてご紹介します。
asukakoubou.com、www.1bankan.com、www.naowashi.com

展示作品：豊かな自然、長い伝統を持つ佐賀県だからこそ生み出すことのできる日本らしい工芸品、デザイン性の高い商品をこれらのすてきなモノを生み出した佐賀県の魅力と合わせてご紹介。

20. さしものかぐたかはし＋マアル （家具、肌着）／広島県安芸郡熊野町

さしものかぐたかはし:木という素材は生き物です。木の持つ表情や佇まいに合わせて手を加え、家具という新たな役割を与えるべく、形づくってゆく。私たちが家具作りにおいて最も大切にしているもの、それは手仕事です。sasimonokagu-takahashi.com

マアル：化学薬品を可能な限り使わず、綿の油分を絶妙に残したフェアトレードのオーガニックコットンを本体のみならず、縫い糸にも 100% 使用し 1 枚ずつ優しく縫い上げた肌着。
日本古来の肌着からヒントを得て、巡りを遮らず寄り添う新しい肌着の形を提案。marru.net

展示作品：テーマは「木肌・肌心地」。肌に触れると、身も心もリラックス出来る心地よさを追求してきた私たちのものづくりの成果を皆様にお伝えします。

21. SyuRo （食器、玩具 他）／東京都台東区

SyuRo デザイナー兼ディレクターの宇南山加子が、町工場が多く残る台東区を活動拠点に、生活で使い続けることのできる道具を日本の伝統や、職人の技術、SyuRo のフィルターを通して、日常のデザインプロダクトとしてお伝えしています。かっこよく気どったものでもなく、かっこよくあたたかいもの。思いやりや心意気。そんな空気を生活デザインとして伝えていけたらいいと思います。普通の当たり前と、ささやかなアイディアと、大きな心意気を持って。
www.syuro.info

展示作品：SyuRo の商品を代表する丸缶や木製品や新作の器など日常の生活雑貨。五感に響きながらも、素材感を大切にし、経年変化を楽しめる数々の手仕事のアイテムを紹介。

22. 宝島染工 （草木染め製品 他）／福岡県三潴郡大木町

19 世紀半ばまでは、全て天然染料で染め上げた物を着ていた日本人。虫除け・薬効、または身分など実用性から装飾、人から人へと繋がれていった染色技術。安価で便利な化学染料に比べ、今では貴重な藍など天然染料ならではの地味なようで鮮やかな彩度がある色。色を重ねることで出る色のとろみは「侘びの味」のような雰囲気で独特です。天然染料を使用し、昔ならではの染色技法や手作業で、染色加工を今の市場に合うように提案します。takarajimasenkou.com

展示作品：綿やシルク、ウールなど天然繊維を中心に天然染料と手作業で染め上げたテキスタイルショールを展示をします。木と金属と組み合わせるなど、伝統的なイメージとまた違う藍染の良さを転用したインテリアピースも合わせて展示。

23. Takumi Craftworks （食器）／オランダ・ハーグ

窯元自身が立ち上げたブランドをヨーロッパで取り扱う輸入代理店。日本のモノを丁寧に選びその文化も含めて伝えたい。シンプルでありながら長年にわたり大切にされてきた伝統技術を受け継いだ日用食器や道具と一緒に、日本のサスティナビリティまたは食文化の大事なエッセンスが伝われば、そこから新しい食・生活文化が始まり、豊かになれると信じています。
takumicraftworks.nl

展示作品：三重の萬古焼窯元 4 社が始めたブランド 4TH-MARKET から、産地が得意とする耐熱陶器とティーウェアー。新しい常滑焼ブランド TOKONAME からは、新しいスタイルの急須と保存容器などを展示。

24. TIME & STYLE （家具、食器 他）／東京都港区

伝統・技術と、日本特有の緊張感・調和・静寂といった繊細な感覚を現代のライフスタイルと融合させ、良質な素材を用いて、オリジナルの家具とテーブルウェアを製作・販売。製作工程のプロセスのほとんどが職人の手によるもの。人の五感に訴求する素材のぬくもりや繊細な仕上がりは機械だけでは実現不可能で、ハンドメイドの良さを最大限に引き出し製品に宿していくことをモットーに、流行や時代を超えて、末永く愛用して頂くため、デザインとしての耐久性と普遍性も追及しています。www.timeandstyle.com

展示作品：日本の美や伝統工芸を背景とした家具、照明、テーブルウエアを展示。シンプルな形の中にも作りこまれたディテール、繊細なニュアンス、丁寧で緻密な仕上げられた製品。

25. TSUNAGU SONOGI TEA FARMERS （日本茶）／長崎件東彼杵郡東彼杵町

2016 年 4 月、長崎県の東彼杵町でお茶の美味しさを追求し意欲的にお茶づくりをおこなっている茶農家 5 軒が主となり、これまで一個人事業では対応しきれなかった領域へ踏み込んで挑戦する機会を見出し、いろいろな方と繋がることで地域の産業が活性化していく流れを作っていく目標を掲げ、組織を立ち上げました。

展示作品：長崎の茶生産者 5 人が各自栽培している 5 つの品種を、五感で作り上げた玉緑茶『THE FIVE SENSES（ヤブキタ + サエミドリ + ツユヒカリ + オオイワセ + オクユタカ）』と、同じく各自栽培している茶葉を使い、五種類のお茶『THE FIVE COLORS（焙じ茶、和紅茶、烏龍茶、玉緑茶、白折茶）』を展示。

26. うきは市 （食器、網かご 他）／福岡県うきは市

福岡県南部に位置するうきは市は、田園風景の中にアーティスティックなものづくりが息づく賑やかな田舎です。今回は、「くらしギャラリー ぶどうのたね」のキュレーションによる展示。「くらしギャラリー ぶどうのたね」も入る「ぶどうのたね」のエリアには、貴重な伝統技法でつくられる着物を扱う「着物の宝箱」のような「きもの田中屋」を中心に、作家もののギャラリーやカフェ、自家焙煎珈琲店などの店舗が集まっており、全国的にも人気があります。

展示作品：うきは近郊の作家による木工、陶器、ワイヤーアートなどの作品を中心に、「ぶどうのたね」が扱う手仕事作品を展示。また、田中屋の店主・田中博史のワークショップ「着物のはなし」では全国の織り元から集めた着物をきものをご紹介。

レクチャープログラム

※全 11 のレクチャーを予定しています （詳細はこちらをご覧ください → www.monojapan.nl/jp_lecture）

MONO JAPAN を開催する最大の目的として、多角的、かつ奥深いところから、日本のモノづくりやデザインの今、そしてそれらの歴史・伝統・背景をオランダやヨーロッパの方々へ伝えるということがあります。エキシビションのみならず、期間中は毎日、日本やオランダから、デザイナーや作り手、文化機関やキュレーターなど多彩なゲストを招きレクチャーを開催します。日本のモノづくりが世界と取り組む例をあげたり、オランダやヨーロッパのクリエイターに与えている影響を見出したりすることで、ここに集まるさまざま立場の人々が単に日本のモノを知るだけでなく、何かインスピレーションを受け、未来に向けて発展的につながることができたらと思っています。

予定しているレクチャーを抜粋してご紹介します。

（1）「芸術 × プロダクト × 工芸」

高橋孝治（デザイナー）／ドメニコ・トリンチェロ（DOK ホーム・オフ・クッキング）／司会進行：松永華子（TAKUMI craftworks）

MONO JAPAN 出展商品の中でも、人気の高い陶器。日本の生産者と一緒に商品を開発するデザイナー高橋孝治さん、オランダ最大のキッチン用品店グループ会社に属し、ヨーロッパの消費者をよく理解するバイヤー、ドメニコ・トリンチェロさんの立場から見た日本発の製品の魅力とそれに対する期待、我々にとっての生活雑貨としての陶器の魅力とは？を語る。

（2）「陶芸の爆発 - 日本と欧州での陶器の近未来」

ランティ・チャン（欧州窯業ワークセンター、ディレクター）

昨年 11 月に有田で開催された国際セラミックシンポジウムで、今日の陶磁器テーブルウェア産業における急激な変化についての考察について発表されたことは記憶に新しい。さて今後、そこでは誰が国際競争を勝ち残り、サステイナブルな事業を維持していけるのだろうか？

（3）「オランダ – 九州、文化を共有した過去から共に創造する未来へ」

メルヒオール・ブッシンク、桑原果林（DutchCulture、国際文化協力部）

オランダと九州との特別な繋がりを祝し、様々な文化協力プログラムが花開いた 2016 - 2017 年。オランダ国内外の文化セクター、政府機関、外交ネットワークと連携して活動しているダッチカルチャーが、オランダー九州プログラムに関わった作家や企業・団体のコラボレーションから生まれた数々の美しいプロジェクトを紹介。

（5）「東西百菓子之図 Sweet Hirado - 日本のお菓子の島、平戸」

大地千登勢（アーティスト・キュレーター）／イナ＆マット（デザイナー）／ローズマライン・パーランドット（アーティスト）

1609 年に日本初のオランダ商館が設置された平戸。白砂糖が伝わり平戸砂糖菓子文化が花開き、200 年前に編纂されたお菓子図鑑「百菓之図」から着想を得、オランダと共に新たな伝統と革新のお菓子文化を創造、世界へ発信する「Sweet Hirado・東西百菓之図」。オランダから 2 組のデザイナーとアーティストが来日し、平戸で菓子職人らと新しい菓子文化の創造が始まっている。

（4）「クラフトが生き続けるために！」

ヘールチェ・ヤコブス（Textile Museum）／シャルロッテ・ランスヘール（Cor Unum）

オランダで伝統工芸を生き生きとした形で守り続けている 2 つの例をご紹介。社会的な運営を行う独立法人 “Cor Unum”、美術館とワークショップの場を兼ね備えたユニークな機関 “TextileMuseum”。同じミッションを担うこの 2 つの団体の女性ディレクターを迎え、日本とオランダ、両国の共通点と相違点に焦点を当ててクラフトの未来を探る。

主催

JAPAN CULTURAL EXCHANGE

Japan Cultural Exchange（JCE）は 2015 年に設立、オランダの首都アムステルダムの中心地、ダム広場近くにオフィスを構え、日本とオランダ 2 国間での様々な文化交流の実現をサポートしています。代表の中條永味子他、オランダ在住歴の長い日本人スタッフと日本文化を理解するオランダ人チームと共に「こんなことが実現すれば良いな！」というワクワクするアイデアを形にしていく、深く実りある交流のお手伝いをしています。日本文化の発信や文化交流イベントの企画運営、またオランダの他の文化・教育機関と協力したプロジェクトや、日本へ特別な興味を持って渡航するオランダ人クリエイターのサポートなど、日本からのオランダ視察の手配など、幅広い活動を行っています。

www.japanculturalexchange.nl/

LLOYD HOTEL & CULTURAL EMBASSY

ロイド・ホテル＆カルチュラルエンバシー（Lloyd Hotel & Cultural Embassy）は、ダッチ・デザインを世界に知らしめた、アムステルダムでも特別なホテルです。2004 年にオランダの建築家集団 MVRD により歴史的な建物がホテルとして現在の姿に生まれ変わりました。建物館内では、個性溢れる家具やオブジェがそれぞれ存在感を発揮しながらも、巧妙に調和し、旅人をホッとさせるくつろいだ空間を創り上げています。著名なオランダ人デザイナーたちが手掛けた客室は、1 ツ星から 5 ツ星まで様々な部屋が用意されています。カルチュラルエンバシーは、ホテル館内にて随時様々なジャンルでの展示会やイベントを開催、ホテルを常に刺激的な文化の発信地としても活用されています。

www.lloydhotel.com/

LUFTZUG

ルフトツーク（LUFTZUG）は アムステルダムと東京を拠点とし、日本やアジア、欧州、その他世界中で、映像演出･パフォーミングアートを中心に、企画、プロデュース、運営、総合的なアートディレクション、システム開発、出版、アーティスト・企業・運営団体のためのテクニカルスタッフ・機材のコーディネートを行うクリエイティブプロダクションです。2014 年イタリア「ミラノ・サローネ」にてシチズン・インスタレーション “LIGHT is TIME” のテクニカルディレクションを担当し、“Milano Design Award 2014” にて「ベストエンターテイニング賞」と「ベストサウンド賞」の 2 部門を受賞。代表の遠藤豊（えんどう・ゆたか）は MONO JAPAN の発案時からのコア・チームであり、テクニカル・ディレクションを担当しています。

https://www.facebook.com/LZWORKS/

パートナー

DutchCulture centre for international cooperation

Gemeente Amsterdam

Kingdom of the Netherlands

VISIT DUTCH DESIGN DISTRICT BRABANT

COR UNUM

TextielMuseum TextielLab

PRESS CONTACT

ご質問、取材や掲載に関するご希望などがございましたら下記までお問い合わせ下さい。

竹形尚子（デイリープレス）

TEL. 03-6416-3201 MAIL. naotakegata@dailypress.org